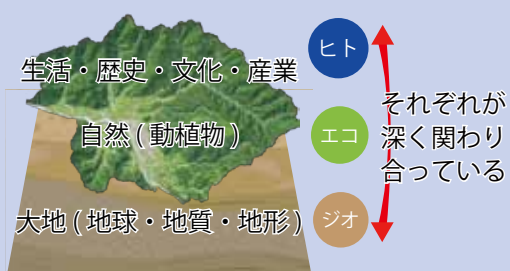


Geopark=Geo (大地) +park (公園)
「大地の博物館」



勝山市のジオパーク「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」は、平成21年に「恐竜はどこにいたのか? 大地が動き、大陸から勝山へ」をテーマに、日本ジオパークに認定されました。恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークは、恐竜が大陸で生きていた時代から、勝山で恐竜化石として発見されるまでの間の地球活動の遺産や人々の暮らしなどを訪れる方が目で見て、肌で感じる事ができる大地の博物館を目指して、活動してきました。

「恐竜はどこにいたのか?」
大地が動き、大陸から勝山へ」

ジオパークを楽しむための

環境が整ってきた

これまで、ジオパークの普及を目指して、ジオサイトなどの説明看板の設置や市民向けの講演会、自然観察会などを開催してきました。また、地域と学校、研究機関などが連携して、学校教育の中でジオパーク学習にも取り組んでいます。これらの活動は、ジオパークという視点を通して地域を見る力を養うことにつながる活動です。

「ジオパーク」の視点を持つ

人々を増やす

しかし、ジオパークという視点を通して地域を見る力を持つ市民の方がまだまだ少なく「ジオパークって何?」「難しそうでよくわからない」など、ジオパークの魅力が知られていません。

ジオパークの視点を持つと、普段見えている風景が違って見えたり、地域のことを深く知ることができたりします。この楽しさをより多く

ジオパークの視点?と思われた皆さまのために、次のページからは私が開発した「ジオパーク眼鏡」を使って、ジオパークの視点で見たときに見える世界(気づき)を少しご紹介します。

普段見慣れた風景がどのように変わってくるのか。ぜひご一読ください。

ジオパーク眼鏡

ただの石も「ジオパーク眼鏡」を通してみれば、〇〇〇がみえてくる。

商工文化課
町 主査(学芸員)

次世代へつなぐ大切さ

ジオパークの視点で気づいた地域の資源や環境を地域で守り、教育や観光などに活用し、将来へ引き継いで行くことは持続可能なまちづくりにつながっていきます。

次の世代に向けたジオパークへ。ジオパークの魅力とこれからの活動について紹介します。

の人と分かち合っていきたいと考えています。

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークのあゆみ

平成21年(2009)	「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」が日本ジオパークに認定
平成25年(2013)	再認定審査※→条件付き再認定(2年後に再認定審査)
平成27年(2015)	再認定審査→再認定
令和元年(2019)	再認定審査→再認定
令和5年(2023)	再認定審査

※4年に1度日本ジオパーク委員会によって地質遺産の保全や活用の取り組み、普及活動などが審査されます



ジオパークの魅力は
「ジオパーク」という視点を通して
地域を見たときに
その地域の解像度が大きくなることだ
普段見慣れた風景の中に
今まで知らなかった“気づき”が隠れている

DINOSAUR VALLEY FUKUI KATSUYAMA GEOPARK
特集 ネクスト ジオパーク
"気づき"を次世代へ